

I. めざす学校像

「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成する学校

1. 「凛とした美しい人づくり」を中核とした教育力で女子高として存在感の高い学校
2. 主体的に学ぶとともに能動的に行動できる人材を育成する学校
3. 女子のキャリア教育に注力し、関連の諸学校への進学に強い学校
4. 国際的な感性を磨き、コミュニケーション能力の豊かな人材を育成する学校
5. 人権を尊び、「いじめ」や「差別」などの人権侵害を許さない学校

II. 中期的目標

1. 生徒募集活動の強化

(1) カリキュラムの改編による各科・コースの特色づくり

大学入試改革への対応と各科・コースの特色を明確化するため、平成 31 年度入学生からカリキュラムを改編する。特に、特進文系と標準コースについては、卒業後の進路の多様化に対応するため、選択科目の枠を広げるとともに、すべての科・コースに学校設定教科「キャリア」の授業を設定し、それぞれの科・コースの進路先に応じた探究型の授業を取り入れる。

(2) 広報戦略の再構築

平成 31 年度の生徒募集目標を募集定員の 250 名とする。その実現に向けて、平成 30 年度入試結果の分析を踏まえ、説明会やオープンスクールの時期や内容の見直し、ホームページだけでなく SNS を活用するなど効果的に情報を発信し、本校の特色が中学生及びその保護者、中学校や塾関係者に十分伝わるよう、教職員一同が危機感をもって募集活動に取り組む。

2. 基礎学力の定着と生徒の習熟度に応じた学力向上対策

(1) 学習習慣の定着

昨年度導入した「スタディサプリ」の活用を促進するため、その効果的な活用法について教員間で研究すると共に、既存の滝井チャレンジプログラムを見直し、学習計画と進路計画とを融合させた新たな滝井メソッドを確立させる。

また、朝学習や補習・講習の充実、図書室の自習スペースの拡張などにより、すべての生徒に学習習慣が身につくように環境整備を行う。

(2) 習熟度別授業と個別指導の徹底

英語、数学、国語の 3 教科で習熟度別授業を実施し、生徒一人一人の学力に応じた指導を充実させることにより、理解度を高め、学習意欲の喚起と学力伸長を図る。また、進路に応じた小論文指導、大学生の学習支援サポーターによる成績不振者に対する指導など個別指導の充実を図る。

(3) ICT 機器の導入及びアクティブ・ラーニング型授業の普及

生徒に知識だけでなく、思考力・判断力・表現力を身に付けさせるため、ペアワーク、グループワーク、スピーチ、討論など生徒が主体的に授業に参加する、いわゆるアクティブ・ラーニング型の授業を普及させる。併せて、授業への興味・関心を高めるために、ICT を活用した授業が展開できるように、AL 教室や ICT 機器の環境整備を行う。

3. 進学実績の向上に向けた組織的な進路指導の取組み

(1) 女子キャリア進学を見据えた受験指導の徹底

進路指導主任を中心として、特進コース文系、特進コース薬学系、看護進学コース、国際科の各主任が連携しながら、難関大学・学部への進学を希望する生徒に対する組織的な受験指導を徹底して行い、進学実績を伸ばす。

また、できるだけ早期から進路に対する意識を高めるため、それぞれの進路先に応じた職場体験実習や大学見学ツアーを実施する。

(2) 併設大学への進学安定化のための高大連携プログラムの充実

標準コース 2 年生を対象とした後期の併設大学連携授業を継続し、早期に併設大学の授業内容等を理解させることにより、3 年次での垂直連携授業での講座選択を円滑にするとともに、内部進学の際の適切な学部選択に役立てる。さらには、大学・短大のクラブとの連携強化を図り、円滑な内部進学につながるよう、担当者同士の連絡を密にする。

4. グローバルマインド育成のための取組み強化

(1) 「時を守り、場を清め、礼を正す」3 原則の徹底

小笠原流礼法を授業に取り入れ、人に対する思いやりの心と感謝の気持ちを育む教育を継続する。併せて、遅刻の防止、挨拶の励行、清掃活動の徹底により、「凛とした美しい人づくり」をより強化する。

(2) 国際交流プログラムの充実

すでに留学先や修学旅行先となっているカナダ、ニュージーランド、オーストラリアに加え、大和田高校との共催行事であるベトナムボランティアツアー、UCLA 研修、ケンブリッジ研修を継続する。さらに、来年度の普通科修学旅行の行き先がベトナムに変更となることを受け、今年度から事前学習に取り組む。

(3) クラブ活動のさらなる活性化

新グラウンド、テニスコート、体育館の整備に伴い、運動クラブの活性化を図るとともに、文化クラブも含めた既存のクラブへの加入を積極的に勧め、加入率 70% をめざす。

(4) 地域貢献活動の推進

地元幼稚園、小・中学校や特別支援学校との連携、地域清掃活動、地域行事への積極的な参加、病院や福祉施設等への出前演奏など地域におけるボランティア活動を推進し、地域に根ざした学校としてのイメージを定着させる。

5. 将来ビジョンを踏まえた組織的な学校運営

(1) 中期経営計画に基づく教職員の意識改革

来年度創立 90 周年を迎える歴史と伝統を継承しつつ、全教職員が本校の現状と課題を共通理解し、将来の滝井高校のあるべき姿を描きながら、その課題解決に向けて改革に取り組む。

(2) 配慮を要する生徒への指導の充実

すべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育を基本に、一人ひとりの障がいの状況に応じた配慮を行うため、特別支援委員会を中心に個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を推進し、一人ひとりのニーズに応じた指導や支援を行う。

(3) 教員の授業力向上

生徒の様々な学力層と多様な進路希望に対応するため、それぞれの生徒実態とニーズに対応した授業展開が求められる。教員の授業力向上を図るため、新設した研究部を中心に、ベテラン教員と経験の少ない教員とが互いに教え合い学び合う環境をつくとともに、校内や校外における研究授業への参加機会を確保する。

(4) 教職員研修の計画的実施

質の高い教職員集団の維持向上を図るため、計画的、継続的な教職員研修を実施する。その際、外部教育機関とも連携を図りながら、経験年数に応じたより実践的で効率的なものとなるよう工夫する。

(5) 働き方改革の推進

教職員の長時間労働の削減と生徒指導の時間確保のため、教員補助員の雇用及び事務の ICT 化を推進する。また、メールや共有フォルダの活用により、会議資料等のペーパーレス化を図り、経費節減と環境保護の意識を高める。

Ⅲ. 本年度の取組内容及び自己評価

評価指標：※は学校評価アンケートでの肯定的評価 A+B の割合

自己評価：◎目標以上(70%以上) ○ほぼ目標どおり(60%～) △目標に達していない(20%～) ×全く取り組めていない(20%未満)

中期的目標 今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 生徒募集活動の強化 (1) カリキュラムの改編による各科・コースの特色づくり (2) 広報戦略の再構築	(1) ①平成 31 年度入学生からカリキュラムを改編し、特に、特進文系と標準コースについては、選択科目の枠を広げる。 ②すべての科・コースに学校設定教科「キャリア」の授業を設定し、探究型の授業を取り入れる。 (2) ①平成 31 年度の生徒募集目標を募集定員の 250 名とする。 ②説明会やオープンスクールの時期や内容の見直し、HP だけでなく SNS を活用するなど効果的に情報を発信する。	(1) ①新カリキュラムの編成 ②「特色ある行事などの教育活動がある」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) ・「入学してよかった」(※生徒・保護者の肯定的評価 70%以上) (2) ①志願者が前年度実績を上回ると同時に入学者数が募集定員を超える。 ②オープンスクール、入試説明会の参加者数が前年度を上回る。	(1) ①H31 から「標準コース」を「総合進学コース」と名称を変更すると共に、各科・コースに課題研究や探究型の授業を取り入れた。(○) ②生徒 75%、保護者 83%、教員 83%(◎) ・生徒 56%、保護者 82%(○) (2) ①一次志願者数が 523 名で昨年度 636 名から 113 名減(△33.6%)となり、入学者が 164 名。(△) ②オープンスクール、入試説明会の参加者数が 825 名と昨年度 886 名から 41 名減少。守口キャンパスで実施予定の第二回が台風のため中止になった影響が大きい。(○)
2. 基礎学力の定着と生徒の習熟度に応じた学力向上対策 (1) 学習習慣の定着 (2) 習熟度別授業と個別指導の徹底 (3) ICT機器の導入及びアクティブラーニング型授業の普及	(1) ①「スタディサプリ」の活用を促進するため、その効果的な活用法について教員間で研究する。 ②朝学習や補習・講習の充実、図書室の自習スペースの拡張などにより、すべての生徒に学習習慣が身につくように環境整備を行う。 (2) ①英語、数学、国語の3教科で習熟度別授業を実施する。 ②進路に応じた小論文指導、大学生の学習支援サポーターによる成績不振者に対する指導など個別指導の充実を図る。 (3) ①生徒に知識だけでなく、思考力・判断力・表現力を身に付けさせるため、ペアワーク、グループワーク、スピーチ、討論などアクティブ・ラーニング型の授業を普及させる。 ②ICTを活用した授業が展開できるよう、AL教室やICT機器の環境整備を行う。	(1) ①「スタディサプリは役立っている。」 ②「朝学習は学力向上に役立っている」(※①②生徒・保護者・教員ともに肯定的評価 70%以上) ・「放課後などに自習する環境が整っている」(※生徒・教員ともに肯定的評価 70%以上) (2) ①「授業がわかりやすい」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) ②「授業中や放課後、質問しやすく熱心に教えてくれる」(※生徒・教員の肯定的評価 70%以上) ③「学力は着実に伸びている」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) (3) ①「学力向上に力を入れている」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) ②「AL教室やICT機器が充実している。」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) ・「AL教室やICT機器は、授業改善に役立っている。」(※教員の肯定的評価 70%以上)	(1) ①生徒 25%、保護者 47%、教員 15%(△) ②生徒 45%、保護者 74%、教員 49%(△) ・生徒 70%、教員 78%(◎) (2) ①生徒 56%、保護者 63%、教員 76%(○) ②生徒 61%、教員 90%(○) ③生徒 49%、保護者 64%、教員 51%(△) (3) ①生徒 61%、保護者 75%、教員 68%(○) ②生徒 60%、保護者 69%、教員 56%(○) ・教員 68%(○)
3. 進学実績の向上に向けた組織的な進路指導の取り組み (1) 女子キャリア進学を見据えた受験指導の徹底 (2) 併設大学への進学安定化のための高大連携プログラムの充実	(1) ①難関大学・学部への進学を希望する生徒に対する組織的な受験指導を徹底して行い、進学実績を伸ばす。 ②それぞれの進路先に応じた職場体験実習や大学見学ツアーを実施する。 (2) ①標準コース2年生を対象とした後期の併設大学連携授業を継続し、早期に併設大学の授業内容等を理解させることにより、3年次での垂直連携授業での講座選択を円滑にする。 ②大学・短大のクラブとの連携強化を図り、円滑な内部進学につながるよう、担当者同士の連絡を密にする。	(1) ①「授業以外にも講習・補習や個別指導を熱心に行っている。」(※教員の肯定的評価 70%以上) ・「進学実績は上がっている。」(教員の肯定的評価 70%以上) ②「学校は進路指導をしっかりとくれる」(※生徒・保護者の肯定的評価 70%以上) (2) ①内部進学者数を卒業生の 30%以上にする。 ②大学・短大とのクラブ連携の実施	(1) ①教員 90%(◎) ・教員 39%(△) ②生徒 70%、保護者 81%、教員 88%(◎) (2) ①内部進学者数 56 名で内部進学率 29%(○) ②吹奏楽部が大学・短大・大和田中・高校との合同演奏会に参加。(△)

<p>4. グローバルマインド育成のための取り組み強化 (1)「時を守り、場を清め、礼を正す」3原則の徹底</p> <p>(2)国際交流プログラムの充実</p> <p>(3)クラブ活動のさらなる活性化</p> <p>(4)地域貢献活動の推進</p>	<p>(1)①小笠原流礼法を授業に取り入れ、人に対する思いやりの心と感謝の気持ちを育む教育を継続する。 ②遅刻の防止、挨拶の励行、清掃活動の徹底により、「凛とした美しい人づくり」をより強化する。</p> <p>(2)①カナダ、ニュージーランド、オーストラリアに加え、大和田高校との共催行事であるベトナムボランティアツアー、UCLA 研修、ケンブリッジ研修を継続する。 ②来年度の普通科ベトナム修学旅行の事前学習に取り組む。</p> <p>(3) 新グラウンド、テニスコート、体育館の整備に伴い、運動クラブの活性化を図るとともに、文化クラブも含めた既存のクラブへの加入を積極的に勧め、加入率 70%をめざす。</p> <p>(4) 地元幼稚園、小・中学校や特別支援学校との連携、地域清掃活動、地域行事への積極的な参加、病院や福祉施設等への出前演奏など地域におけるボランティア活動を推進する。</p>	<p>(1)①「礼法の授業は役立っている」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) ・「先生は間違った行動を正しく指導してくれる」(※生徒・保護者の肯定的評価 70%以上) ②「マナーやルールを守ることが身に付いたと思う」(※生徒・保護者の肯定的評価 70%以上) ・「命の大切さや人権の大切さを学ぶ機会がある」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上)</p> <p>(2)①「国際交流の取組が充実している」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) ②ベトナム修学旅行の事前準備の実施。</p> <p>(3)①「生徒会活動やクラブ活動が活発である」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) ②クラブ加入率70%以上。</p> <p>(4)①「学校行事に積極的に参加している」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上) ②本校には独自の特色ある行事などの取組がある」(※生徒・保護者・教員の肯定的評価 70%以上)</p>	<p>(1) ①生徒 81%、保護者 90%、教員 80%(◎) ・生徒 74%、保護者 83%、教員 80%(◎) ②生徒 76%、保護者 83%、教員 54%(○) ・生徒 78%、保護者 79%、教員 83%(◎)</p> <p>(2) ①生徒 58%、保護者 74%、教員 88% ・関西外大の留学生インターンシップ、JRC 交換留学生、ポーランド研修生の受け入れなどを実施。(○) ②10月に教員3名で現地視察を実施するとともに、2月に生徒への事前学習を実施した。(○)</p> <p>(3) ①生徒 71%、保護者 73%、教員 54%(○) ②クラブ加入率 59.5%(△)</p> <p>(4) ①生徒 74%、保護者 85%、教員 63%(◎) ②生徒 75%、保護者 83%、教員 83%(◎) ・看護進学コースの生徒が日本赤十字大阪府支部主催のボランティアに定期的に参加。 ・吹奏楽部、軽音楽部が地域の病院や福祉施設等に出前演奏。 ・生徒会がエコキャップ運動や交通安全キャンペーンに参加。</p>
<p>5. 将来ビジョンを踏まえた組織的な学校運営 (1) 中期経営計画に基づく教職員の意識改革</p> <p>(2) 配慮を要する生徒への指導の充実</p> <p>(3) 教員の授業力向上</p> <p>(4) 教職員研修の計画的実施</p> <p>(5) 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 来年度創立 90 周年を迎える歴史と伝統を継承しつつ、全教職員が本校の現状と課題を共通理解し、将来の滝井高校のあるべき姿を描きながら、その課題解決に向けて改革に取り組む。</p> <p>(2) 特別支援委員会を中心に個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を推進し、一人ひとりのニーズに応じた指導や支援を行う。</p> <p>(3)①教員の授業力向上を図るため、新設した研究部を中心に、ベテラン教員と経験の少ない教員とが互いに教え合い学び合う環境をつくる。 ② 校内や校外における研究授業への参加機会を確保する。</p> <p>(4) ①外部教育機関とも連携を図りながら、計画的、継続的な教職員研修を実施する。 ②経験年数に応じたより実践的で効率的なものとなるよう工夫する。</p> <p>(5) ①教職員の長時間労働の削減と生徒指導の時間確保のため、教員補助員の雇用及び事務の ICT 化を推進する。 ②メールや共有フォルダの活用により、会議資料等のペーパーレス化を図る。</p>	<p>(1)①「学校方針や目標を教職員・学校関係者が理解して取り組んでいる」(※教員の肯定的評価 70%以上) ②理事会等における学園運営に関する必要事項は報告されている」(※教員の肯定的評価 70%以上)</p> <p>(2)「支援が必要な生徒に対して組織的に対応している。」(※教員の肯定的評価 70%以上)</p> <p>(3)①「教科会議で授業内容等を評価、意見交換を実施している」(※教員の肯定的評価 70%以上) ②教員の相互授業見学期間の設定と研究授業の実施。 ・「研修等に参加した成果を他教員に伝えて情報を共有している」(※教員の肯定的評価 70%以上)</p> <p>(4)①「効果的な校内研修計画を立案し教員に実施している」 ②「初任者等経験の少ない教員に対する研修が実施されている」(※①②教員の肯定的評価 70%以上)</p> <p>(5)①業務の効率化を図る取組を実施しているか。 ②「学園や学校の財務状況の必要事項は報告されている」(※教員の肯定的評価 70%以上)</p>	<p>(1)①教員 54%(△) ②教員 56%(△)</p> <p>(2)①教員 73%(◎)</p> <p>(3)①教員 59%(△) ②6月に教員相互授業見学を実施。11月には英語科と家庭科の公開授業、1月には外部講師を招いての公開研究授業を実施した。(○) ・教員 46%(△)</p> <p>(4)①教員 54%(△) ②教員 68%(○)</p> <p>(5)①運営委員会で12月よりペーパーレス会議を実施。月一回のノー残業デーの実施。(○) ②教員 68%(○)</p>

IV 自己評価アンケートの結果と分析

1. 実施状況

対象	対象者数	回収数	回収率	調査期間	備考
生徒	1年生	192	186	97%	平成31年2月8日
保護者	1年生	192	188	98%	平成31年1月16日～23日
生徒	2年生	244	240	98%	平成31年2月4日
保護者	2年年	244	239	98%	平成31年1月16日～23日
生徒	3年生	192	190	99%	平成31年1月16日
保護者	3年年	192	191	99%	平成31年1月16日～23日
生徒	全学生	628	616	98%	平成31年1月16日～2月8日
保護者	全学年	628	618	98%	平成31年1月16日～23日
教職員	常勤	41	41	100%	平成31年1月30日～31日

2. 質問項目

昨年度の調査より以下の項目を変更した。

①削除項目

昨年度末で「滝井チャレンジプログラム」が終了したことにより、質問項目から「滝井チャレンジプログラム」関連の質問1つを削除した。また、教員の質問項目からは、「中央館2階の国際科フロア」に関する質問1つも削除した。よって、生徒保護者は質問1つ、教員は質問2つを削除した。

②追加項目

今年度、大阪北部地震や台風などの自然災害が多発し、学校として生徒の安全確保や防災意識の向上に関する質問（2つ）を追加した。

以上①②により、生徒への質問数が昨年度23から今年度24の質問項目で、保護者への質問数が昨年度24から今年度25へそれぞれ1問増加で実施した。また、教員への質問は、削除項目と追加項目が同数のため質問数45となり昨年度と同様で実施した。

3. 対象別アンケート結果と分析

各対象の表は、アンケートの項目を肯定的評価(A+B)の割合である。肯定的評価が80%以上を高評価項目、60%～79%を中評価項目、30%～59%を低評価項目、0%～29%を最低評価項目と分類し考察する。

(1)生徒

4年間の経年推移

肯定的評価（A+B）の割合別項目件数の4年間の推移（生徒）

	100～90	89～80	79～70	69～60	59～50	49～40	39～30	29～0	項目数
	高評価		中評価		低評価			最低評価	
平成30年度	0	1	11	5	4	2	0	1	24
平成29年度	0	1	9	7	4	0	2	0	23
平成28年度	0	2	8	5	3	2	1	0	21
平成27年度	2	6	6	5	1	1	1	0	22

アンケートの項目(全24項目)の肯定的評価(A+B)の割合で高評価項目数は、平成27年度8→平成28年度2→平成29年度1→平成30年度1と減少している。また、中評価項目数は、平成27年度11→平成28年度13→平成29年度16→平成30年度16と昨年度と同数となっている。低評価項目は、平成27年度3→平成28年度6→平成29年度6→平成30年度6と昨年度と同数となった。今年度生徒の評価としてはじめて最低評価となった項目が1となった。

高評価項目、低評価項目は以下の通りである。

- 高評価項目 カッコ内の数字は昨年度
S05 礼法の授業は役に立っている。81%↓(85%)
- 低評価項目 カッコ内の数字は昨年度。矢印は昨年度比較(評価が低い順に記載)
S16 朝学習は、学力向上に役立っている。45%↓(58%)
S08 学力は着実に伸びている。49%↓(56%)
S05 授業はわかりやすい。56%↓(61%)
S24 滝井に入学してよかったと思う。56%↑(53%)
S17 国際交流の取り組みが充実している。58%↓(61%)
S23 台風・地震等の危機管理対応がしっかりと行われている。58%(新)
- 最低評価項目 カッコ内の数字は昨年度。矢印は昨年度比較
S15 スタディー・サプリは役に立っている。25%↓(36%)

生徒の評価で特徴的なのは、「滝井高校に入学してよかったと思う」の項目が昨年度(53%)に続いて、今年度(56%)も低いことである。この項目は、科・コースによって差が出る傾向にあるが、今年度は学年による差が今までになく大きくなった。今までこの項目は3年生>2年生>1年生の順になっており、本校の在籍期間が増えるほど評価が高くなっていた。しかし、今年度は3年生>1年生>2年生との結果となった。2年生の評価が、3年生の半分以下となっているコースもある。ただし、この傾向は生徒に限ったものであり、保護者にはこのような極端な傾向はみられず、保護者の評価は生徒よりも高い評価となっている。

経年の傾向を見てみると、評価の低下傾向に歯止めがかかっていないことが分かる。特に低評価項目は、昨年度よりも更に低下している。この傾向が続くと、次年度以降も低下傾向が止まらないことが予想される。この結果は本校の現状を表している。項目個々の対策だけではなく、学校全体の方向性も含めた大きな視野での対策も必要なことを示唆している。

(2)保護者

4年間の経年推移とその特徴

肯定的評価（A+B）の割合別項目件数の4年間の推移（教員）

	100～90	89～80	79～70	69～60	59～50	49～40	39～30	29～0	項目数
	高評価		中評価		低評価			最低評価	
平成30年度	2	11	7	4	0	1	0	0	25
平成29年度	0	12	7	3	2	0	0	0	24
平成28年度	4	9	6	3	0	0	0	0	22
平成27年度	4	13	2	3	0	0	0	0	22

アンケートの項目(全25項目)を肯定的評価(A+B)の割合で高評価項目数は、平成27年度17→平成28年度13→平成29年度12と減少していたが、平成30年度では、13と平成28年度の水準に戻っている。また、中評価項目でも、高評価項目が増加したにもかかわらず、平成30年度は平成29年度の10より1多い11と増加している。それに対して低評価項目は、平成29年度が2から、平成30年度1と減少した。

高評価項目、低評価項目は以下の通りである。

●高評価項目 カッコ内の数字は昨年度(評価の高い順に記載)

- P04 礼法の授業は子どもの役に立っている。90%↑(88%)
- P07 成績表は、子どもの能力や努力を適切・公平に評価している。89%↓(90%)
- P20 教員の保護者への対応はよい。88%↑(84%)
- P11 子どもは、積極的に学校行事に参加している。85%↑(83%)
- P21 ホームページなどで学校の教育内容を知ることができる。84%↑(74%)
- P22 学校は公開授業や懇談、通信等で学習状況を適切に伝えている。84%(84%)
- P02 学校は、特色ある教育活動を行っている。83%↓(84%)
- P09 学校は、子どもの間違っただ行動を正しく指導してくれる。83%(83%)
- P10 子どもには、マナーやルールを守ることが身に付いたと思う。83%(83%)
- P19 事務職員の保護者への対応はよい。83%(83%)
- P24 滝井高校に入学させてよかったと思う。82%↑(80%)
- P01 学校は、建学の精神や教育方針をわかりやすく伝えている。81%↓(82%)
- P13 学校は、子どもの進捗指導を適切に行っている。81%↑(80%)

●低評価項目 カッコ内の数字は昨年度(評価が低い順に記載)

- P15 スタディー・サブりは役立っている。45%↓(54%)

保護者の評価は、ここ4年間続いてきた低下傾向に歯止めがかかった兆しが伺える。そのことは、数字の出方にも表れている。高評価の13項目のうち10項目が昨年度と同値か上昇している。また、昨年度より下がった3項目も1ポイントの低下となっている。しかしこの結果は、生徒の結果と大きく異なっている。また、低下傾向に歯止めがかかったといっても、大きく上昇に転じたわけではない。次年度以降上昇に転じていくために、生徒に対する対策と同様に学校あげて取り組まなければならない。

(3)教員

4年間の経年推移とその特徴

肯定的評価(A+B)の割合別項目件数の4年間の推移(教員)

	100~90	89~80	79~70	69~60	59~50	49~40	39~30	29~0	項目数
	高評価			中評価		低評価			
平成30年度	5	9	9	7	8	5	1	1	45
平成29年度	5	15	7	8	6	0	2	2	45
平成28年度	11	10	9	7	4	0	0	1	42
平成27年度	18	11	11	3	0	1	1	0	45

アンケートの項目(全45項目)を肯定的評価(A+B)の高評価項目数が初めて20を下回った。それに対して、低評価項目が初めて10を上回っている。生徒の評価も低下傾向が続いているか緩やかなであり、教員とは大きく異なる。経年の傾向としては、生徒・保護者・教員の中で最も悪い評価となっている。

●高評価項目 カッコ内の数字は昨年度(評価が高い順に記載)

- T19 事務室の生徒、保護者、外部等への対応は良好である。100%↑(97%)
- T21 学校ホームページで可能な範囲で情報を公開している。93%↓(95%)
- T07 生徒の成績評価は適切・公平に行っている。90%↓(100%)
- T14 生徒の相談に丁寧に対応している。90%↑(89%)
- T02 学校は、特色ある教育活動を行っている。83%↓(84%)
- T03 学校は、人権教育を適切に行っている。83%↑(74%)
- T20 授業以外でも講習・補習や個別学習指導を熱心に行っている。90%↓(95%)
- T09 生徒への進捗指導を適切に行っている。88%↑(82%)
- T17 国際交流の取り組みが充実している。88%↑(82%)
- T04 礼法の授業は生徒の役に立っている。80%↓(87%)
- T33 生徒指導は学校の方針に従って実施されている。83%↓(84%)
- T10 生徒の間違った行動を正しく指導している。80%↓(84%)
- T30 転退学を抑止するための指導や家庭との連絡・相談が行われている。80%↓(89%)
- T32 いじめの実態把握に努め、いじめの早期発見に努めている。80%↓(84%)

●低評価項目 カッコ内の数字は昨年度(評価が低い順に記載)

- T01 建学の精神や教育方針が生徒、保護者などによく浸透している。44%↓(54%)
- T08 生徒の学力は着実に伸びている。51%↓(66%)
- T11 生徒に、マナーやルールを守ることが身に付いたと思う。54%↓(71%)
- T13 生徒会活動やクラブ活動が活発である。54%↑(53%)
- T16 朝学習は、生徒の学力向上に役立っている。49%↓(71%)
- T18AL 教室やICT機器が充実している。56%↑(32%)
- T27 在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。49%↓(58%)
- T28 学校方針や目標を教職員・学校関係者が理解して取り組んでいる。54%↓(66%)
- T26 進学実績は上がっている。39%↓(76%)
- T38 教科会議で授業内容等を評価、意見交換などを行っている。59%↓(61%)
- T39 効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。54%↓(63%)
- T41 研修等に参加した成果を、他教員に伝えて情報を共有している。46%↓(61%)
- T42 目標管理による教員育成システムが機能している。44%↓(53%)
- T44 理事会等における学園(学校)運営に関する必要事項は報告されている。56%↓(61%)

●最低評価項目 カッコ内の数字は昨年度

- T15 スタディー・サブりは、役立っている。15%↓(21%)

教員の評価で特徴的なことは、T02・T03・T04・T07・T09・T10・T14・T17・T20・T30・T32・T33 の項目のように、教員自身または学校の取り組みとして教員が主体的に行っている項目が高い評価となり、T01・T08・T11・T13・T16・T26・T27 のように、生徒自身の成長や生徒が主体的に行っている活動、または、T18・T28・T38・T39・T41・T42・T44 などのように学校や学園のシステムや施設・設備、または、研修等のように教員に課題が課されたる業務以外の活動を伴う項目が低評価となっていることである。このため、生徒、保護者、特に生徒の評価と乖離した結果が見受けられる。低評価項目の中で T01・T08・T11・T13・T15・T16・T36 は、生徒の理解度や到達度、意識の高さによる項目である。この項目の評価は教員の指導結果であり、これらの項目に低評価と判断しているということは、教員の指導力の不足を自ら認めているように感じる。また T40・T41・T44 は、職員会議や管理職との面談、本部が実施する説明会等で繰り返し説明を受けている項目である。これらの項目の評価が低いということは、本校教員集団の意識の持ち方にも何らかの問題があるのかもしれない。中には、前年度と比較して20ポイントちかく評価が下がった項目や約半分の評価になった項目がある。学校

の雰囲気を作っているのは生徒と考えがちだが、生徒は3年で卒業する。しかし、教員は生徒よりも長い時間学校に関与している。つまり、学校の評価が下がる大きな要因の1つに教員がある。今回の教員の結果は、「自己にやさしく他に厳しく」に感じる。今後も本校が発展を続けるには、教員の意識を高めることが必要と自戒を込めて思う。

(4) 生徒、保護者、教員の結果の関係

① 生徒と保護者の評価の乖離について

生徒と保護者で肯定的評価に15ポイント以上の差がある項目は、「成績や評価」に関する項目（保護者90%、生徒72%）、「学力の伸長」に関する項目（保護者64%、生徒49%）、「スタディーサプリ」に関する項目（保護者47%、生徒25%）、「朝学習」に関する項目（保護者74%、生徒45%）、「国際交流」に関する項目（保護者74%、生徒58%）、「災害時の危機管理」に関する項目（保護者73%、生徒52%）、「滝井高校へ入学して良かった」に関する項目（保護者82%、生徒56%）である。これらの項目は、すべて保護者が生徒よりも高い評価となっている。指導を受ける側と指導する側という明確な立場の違いの中で学校生活を送る生徒は、学校での体験等の直接的な情報をもとに評価している。それに対して、保護者は一步離れた視点で子供の成長を客観的に感じ取り実感し、数少ない学校とかかわる機会では、教員、職員から丁寧な対応を受ける。また学校の情報は、子供の家庭での様子や子供からの話、学校からの印刷物やホームページ、ファミリーネットワークからの情報となる。つまり、保護者自身が体験している情報ではなく、間接的な情報から類推して評価している。その結果として生徒の評価と乖離が生じると考えられる。ただし、このような実体験を伴わない情報による評価は体験を伴う評価よりも高くなることも低くなることもある。今回は、生徒の評価よりも高い結果となったが、常に緊張感をもっていなければすぐに低い結果となってしまふと考えられる。

② 教員と生徒、教員と保護者、教員と生徒・保護者の結果の関係

教員と生徒や保護者、またはその両方の肯定的評価が15%以上乖離している項目は、「建学の精神や教育方針の理解」に関する項目（保護者81%、生徒71%、教員44%）、「わかりやすい授業」に関する項目（保護者63%、生徒56%、教員76%）、「成績や評価」に関する項目（保護者90%、生徒72%、教員90%）、「進路指導」に関する項目（保護者81%、生徒70%、教員88%）、「マナーやルール」に関する項目（保護者83%、生徒76%、教員54%）、「学校行事」に関する項目（保護者85%、生徒74%、教員63%）、「生徒会活動やクラブ活動」に関する項目（保護者73%、生徒71%、教員54%）、「先生が相談にのってくれる」に関する項目（保護者69%、生徒60%、教員90%）、「スタディーサプリ」に関する項目（保護者47%、生徒25%、教員15%）、「朝学習」に関する項目（保護者74%、生徒45%、49%）、「国際交流」に関する項目（保護者74%、生徒58%、教員88%）、「事務室の対応」に関する項目（保護者83%、生徒73%、教員100%）、「質問のしやすい先生」に関する項目（保護者は項目なし、生徒61%、教員90%）、「災害時の危機管理」に関する項目（保護者73%、生徒52%、教員71%）、「教員の保護者対応」に関する項目（保護者88%、生徒は項目なし、教員68%）である。教員の評価が低くても、生徒保護者が高い、あるいはその逆であったりと乖離の状況はさまざまであるが、教員の意識と生徒、保護者の意識に差があることを再確認したうえで指導や保護者対応の方法を考えなければならない。

③ 生徒と保護者、教員の共通の評価項目

よい評価で共通なものは、「礼法」に関する項目である。すべての対象者で80%を超える評価となっている。「凛とした美しい滝井」には欠かせない取り組みとして定着し、評価を得ている。これに対して、全ての対象で低評価だったのが「スタディーサプリ」に関する項目である。すべての対象者で最低の評価になっているが、科・コースや学年により結果に差があることを考えると、効果を実感すれば生徒、保護者、教員の意識が向上し有効に作用すると思う。今回の結果は、長期間の取り組みであるにもかかわらず、最初の案内のみで経過報告等もなく、生徒任せになってしまっている現状では当然の結果と思う。次年度からは進路部の取り組みとしてではなく、学校全体の取り組みとしてスタディーサプリへの取り組みを充実させ、学習習慣の確立や学び直し、受験対策等に効果が出るように取り組むべきと考える。これらの取り組みをすることで、取り組みが行われていることすら理解されていないという状況も改善されると思う。

以上

V. 学校関係者評価委員会の実施と見解

1. 実施状況

日 時 平成31年3月4日(月) 午前10時～午前12時

場 所 大阪国際滝井高等学校 第2会議室(なでしこ)

出席者 学外委員

永井竜二(守口市立樟風中学校 校長)	田辺久信(枚方市立楠葉中学校 校長)	時國和親(馬場二町会 会長)
杉元道子(同窓会「撫子会」 会長)	那須幸代(後援会 会長)	大本親吾(後援会 書記)
中田詩文(後援会 会計監査)	鈴木隆(大阪国際学園 理事)	渡部智(大阪国際学園 監事)

本校関係者

清水隆(校長)	川岸巳継(副校長・教頭)	安松秀(校長補佐)
藤原敏英(事務長)	西口勝美(教務主任)	大古麻由美(第三学年主任)
前川知子(第二学年主任)	野間賢治(第一学年主任)	瓜生恭宏(総務主任)

次 第

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 開会 | 5. 意見交換 |
| 2. 校長挨拶 | 6. まとめ |
| 3. 委員・本校担当者紹介 | 7. 閉会 |
| 4. 資料概要説明 | 閉会後懇談 |

2. 見解

●肯定的な見解

- ・滝井は、「保護者が行かせたいと思う学校であり、生徒が行きたい学校」であることは変わらない。
- ・多くの高校の卒業式を見ているが、滝井の卒業式が一番良い。アンケートの評価が下がっているとのことだが、生徒、保護者は滝井高校しか知らないために、他校よりも素晴らしい学校ということに気付いていないためではないかと思う。
- ・生徒手帳のスケジュール帳への変更は大変良いと思う。
- ・礼法は素晴らしい取り組み。できれば、国際科・特進コース・看護進学コースも3年間履修として欲しい。
- ・年度当初、若い先生方の授業が分かりにくいと娘が言っていたが、どんどん分かりやすくなっていったときいている。学校として若い先生方をしっかり指導している効果が出ていると思う。

●課題に対する見解

- ・「スタディサプリ」は、教員、生徒にその価値をどのように伝えているのかが気になる。また、実施についてもキャリア教育に関連させるなどの工夫をしてはどうか。また、スタディサプリの評価が低いのは、それぞれの立場での意識が下がっているからと思う。特に教員は、本来業務に+αの業務になっているために負担増になっていることも、低評価の原因ではないかと思う。
- ・「滝井はなくなるのか。」「他校と合併するのか。」などと保護者から心配する声が寄せられており、この間違った情報が志願者減に影響しているとの進路担当教員からの話がある。
- ・教員と生徒、保護者の評価の乖離が一番気になる。教員のミーティングを重ねて、教員個々が「我がこと」として取り組む体制を作ってはどうか。
- ・個別に記載があった内容は教員の心に「グサッ!」と刺さると思う。保護者の思いに全て合わせる必要は無いと思うが「滝井高校の指導はこれです!」という学校方針を教員が理解し、年度当初にでも保護者に周知することで、学校の指導に対する理解不足からの不満を持つ保護者は減る。
- ・6月の震災の時には、避難所としてお世話になり感謝している。現実には避難をすることになって気がついたが、避難所である滝井高校と町会が避難に関しての話し合いをしたことがなく大きな災害が起こったときに問題と思う。今後に備えて話し合いの機会を設けていただきたい。
- ・滝井と言えば、爽やかな挨拶のイメージがあり、私も学校に来させていただく度に感じる。しかし、娘の話では登校時など挨拶する生徒が減っているとのことで残念に思う。
- ・各クラブの目標を明確に示し活動内容や練習日程を伝えることで、今回記載があったような保護者の不満は減るのではないかと。
- ・クラブ活動が下火になっているとのことだが、続けたくても続けられない生徒がいることを知って欲しい。例えば、家庭の事情などで毎日の活動に参加できないと続けられない雰囲気がある。クラブの方針や都合もあると思うが、部員個々の環境も理解して欲しい。
- ・女子校ならではの環境作りについては、鋭意実施している。生徒手帳のスケジュール帳への変更やセブンイレブンの自動販売機導入(2機)、JKビジネスに関する講演会、もちろん、礼法の授業もそれにあたり今後も充実させたい。
- ・元気が無くなっていることについては、募集活動における中学生の声からも感じている。そのため、オープンスクールの改革を考えている。この改革をするためには、学校全体が明るく元気な雰囲気を持つ必要があり、そのための工夫をしていきたい。
- ・アンケート評価の数字の“客観性・妥当性”と“情”の間でのアンバランスが結果に出ていると思う。生徒に対して“情”にの部分でのアプローチを工夫することで、数字が変わってくるのではないかと思う。

●学校の見解

- ・女子校ならではの環境作りについては、鋭意実施している。生徒手帳のスケジュール帳への変更やセブンイレブンの自動販売機導入(2機)、JKビジネスに関する講演会、もちろん、礼法の授業もそれにあたり今後も充実させたい。
- ・元気が無くなっていることについては、募集活動における中学生の声からも感じている。そのため、オープンスクールの改革を考えている。この改革をするためには、学校全体が明るく元気な雰囲気を持つ必要があり、そのための工夫をしていきたい。

以上

VI. 今年度の重点目標に対する自己評価が△（評価項目が目標に達していない）の改善策

「1. 生徒募集活動の強化」

(2)広報戦略の再構築：入学者数 164 名（前年比 31 名減）

<改善策>

令和 2 年度の生徒募集については、専願者を 150 名以上確保することを目標とする。その実現に向けて、特待生制度や学納金の納付方法を見直し保護者の経済的負担を軽減すると共に、部活動の活性化、説明会やオープンスクールの時期や内容を見直す。また、学校案内リーフレットやホームページの刷新などより、滝井高校の魅力、各科・コースの特色を一層明確に打ち出し、本校の特色が中学生及びその保護者、中学校や塾関係者に十分伝わるよう、教職員一同が危機感をもって募集活動に取り組む。

「2. 基礎学力の定着と生徒の習熟度に応じた学力向上対策」

(1)①「スタディサプリは役立っている」：生徒 25%、保護者 47%、教員 15%

②「朝学習は学力向上に役立っている」：生徒 45%、保護者 74%、教員 49%

(2)③「学力は着実に伸びている」：生徒 49%、保護者 64%、教員 51%

<改善策>

生徒の自学自習を推進するため、リクルート社の「スタディサプリ」を全校で導入したが、1 年目ということもあり、教員にも生徒にも活用法がまだまだ浸透していない。進路目標と学習計画を一体化させた既存の滝井チャレンジプログラムと融合させた新たな滝井メソッドを来年度に向けて確立させたい。今年度新設した AL 教室は稼働率が高く生徒の評判もよいが、まだ一部の教員しか利用できていない。AL 教室以外の教室においても ICT 活用ができるように環境整備すると共に、新たに設けた研究部が中心となって、アクティブラーニング型授業に関する研究授業や研修会を計画的に実施することにより、学力の向上につながるわかりやすい授業の普及をめざす。

3. 進学実績の向上に向けた組織的な進路指導の取り組み

(1)女子キャリア進学を見据えた受験指導の徹底

①「進学実績は上がっている。」：教員 39%(△)

(2)併設大学への進学安定化のための高大連携プログラムの充実

②「大学・短大とのクラブ連携の実施」：吹奏楽部が大学・短大・大和田中・高校との合同演奏会に参加。

<改善策>

進路指導主任を中心として、特進コース文系、特進コース薬学系、看護進学コース、国際科の各主任が連携しながら、難関大学・学部への進学を希望する生徒に対する組織的な受験指導を徹底して行い、進学実績を伸ばす。また、できるだけ早期から進路に対する意識を高めるため、それぞれの進路先に応じた職場体験実習や大学見学ツアーを実施する。

標準コース 2 年生を対象とした後期の併設大学連携授業を継続し、早期に併設大学の授業内容等を理解させることにより、3 年次での垂直連携授業での講座選択を円滑にするとともに、内部進学の際の適切な学部選択に役立てる。特に、幼児保育に関しては、短期大学部と幼稚園との 3 者による連携協定の締結を機に、短大とは、より一層専門的な学習や学生とのコラボしたイベントの開催、こども園とは幼児とのふれあいや保育士との懇談会など、新たな行事を企画し、幼児保育コースの充実と短期大学部への進学率アップにつなげる。また、大学・短大のクラブとの連携強化を図り、円滑な内部進学につながるよう、担当者同士の連絡を密にする。

「4. グローバルマインド育成のための取り組み強化」

(3)クラブ活動のさらなる活性化

②クラブ加入率 59.5%

<改善策>

学園並びに学校の部活動方針の策定に伴い、部活動の目的を再認識した上で、各部がより計画的で効率的な練習を立てて活動を行い、学習との両立がうまく出来るような環境を整備する。松下町のグラウンド、テニスコート、体育館の利用については、本部課外活動センターとの調整をきめ細かく行い、関係の部が積極的に活用できるようにし、外部にもアピールできるようにする。体験入部の時期を早めるなど工夫し、新入生の加入率 70%をめざす。

「5. 将来ビジョンを踏まえた組織的な学校運営」

(1) 中期経営計画に基づく教職員の意識改革

①「学校方針や目標を教職員・学校関係者が理解して取り組んでいる」：教員 54%

②「理事会等における学園運営に関する必要事項は報告されている」：教員 56%

(3)教員の授業力向上

①「教科会議で授業内容等を評価、意見交換を実施している」：教員 59%

③「研修等に参加した成果を他教員に伝えて情報を共有している」：教員 46%

(4) 教職員研修の計画的実施

①「効果的な校内研修計画を立案し教員に実施している」：教員 39%

<改善策>

創立 90 周年となる記念すべき年であることを踏まえ、本校の建学の精神、学校方針などを全教職員で再認識し、統一した指導方針の下で「凜とした美しい滝井」のイメージを発信する。3 年後の新中高の整備を見据えて、90 年の女子校としての滝井高校の伝統をいかにして新校に受け継ぐのかを考え、全教職員が本校の現状と課題を共通理解し、その課題解決に向けた改革に取り組む。

教員の授業力向上を図るため、年間を通じて計画的な教員研修を行い、研究部を中心に、ベテラン教員と経験の少ない教員とが互いに教え合い学び合う環境をつくるとともに、校内や校外における研究授業への参加機会を確保する。また、質の高い教職員集団の維持向上を図るため、本校の喫緊の教育課題に応じて計画的、継続的な教職員研修を実施する。その際、外部教育機関とも連携を図りながら、経験年数に応じたより実践的で効率的なものとなるよう工夫する。